SEVENTH-DAY ADVENTIST CHURCH

ぶどうの枝

2019年 秋号

天が地よりも高いように…（１３）

千葉キリスト教会　牧師　磯部　豊喜

今年の涼しい雨季が終わり、見違えるように暑くなって来ています。今回は少し涼んでいただくために北の大地、北海道転任のことを書かせて頂きます。温暖な静岡から極寒の地札幌への派遣の辞令、「磯部牧師には北海道地区長を…」との教区長からの呼び声は良い。

さて、静岡教会員の皆様の励ましもあって静岡を出発する日がやって来ました。極寒の地での生活に不安で一杯の私は一つのことを神様にお祈りしました。「もし貴方様が私の異動を祝福してくださるならば、前日は大雪のために飛行機が羽田に戻って来たと聞いています。この航空便ですが、私ども家族が乗る時は、千歳空港に青空を見させてください」。旧約聖書にあるイスラエル民族のリーダーに選ばれた時のギデオンの祈り（士師記6章36～40節）を参考にして、このように具体的な祈りをささげました。

羽田を離陸した時から北海道へ飛ぶ道中、航空機の下にはずっと厚い雲ばかり…。そして千歳空港へ着陸。空港に立ち、空を見あげて私が見たのは、何と空港付近にのみに顔をのぞかせていた青空でした。

千歳空港から高速バスで札幌に向かいましたが、このバスの進路の真上だけが川のような青空でした。私の心に思わず笑みが浮かんだことをいまでも忘れません。

「神はこのようにビビる私にさえ心を留めてくださっておられる…」との確信が湧きました。こうして始まった札幌での任務ですが、ここでは三つの顔を持つ働きが期待されます。①札幌教会の牧師、②札幌三育小学校の運営委員長、③北海道地区のお世話役です。

礼拝堂ステンドグラスを背景に微笑む磯部牧師

これまでは一つの教会の牧師の働きのみで進んできていましたが、北海道では広範囲の働きです。果たして不器用な私にこのような重責は務まるだろうかとの思いはありましたが、この日の千歳空港からの青空をいつも思い出せば大丈夫。こういう思いを持って札幌教会での働きの火ぶたが切られたのです。

果たしてこの札幌教会での働きは順風満帆だったでしょうか。いえいえ、札幌在任中も様々な出来事（ドラマチックな？）が待っていたのです。

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」

（イザヤ書55章8，9節）

ＳＤＡ千葉キリスト教会　マラナ・タ19（春季）講演会

２０１９年５月２１日から６月１日に亘り、『キボウのトビラⅢ「この人による以外救いはない」講演会』が、次のような講演題で、千葉教会磯部牧師、教団東日本教区長小原望牧師によって行われました。

講演題にご興味をお持ちの方々は、千葉教会磯部牧師にお声を掛けて下さい。

講演題	知ってますか 世界の始まり	神はどこに おられるのか	神は人に なれるのか	十字架の 意味	死の後に あるもの
講師	磯部牧師	磯部牧師	磯部牧師	磯部牧師	磯部牧師

講演題	祈りは 聞かれるか	素晴らしい 愛の 道徳律	成し遂げ られた 世界歴史	黙示録に 描かれる 最後の出来事	黙示録に 啓示された 天国
講師	磯部牧師	磯部牧師	磯部牧師	小原牧師	小原牧師

磯部牧師

小原牧師

講師の講話の前に、以下の８名の教会員の方々に、「私のキリスト体験談」を主題として、ご自分の体験談を「証」して頂きました。その「証」を「ぶどうの枝秋号」（本号）に掲載をさせて頂きました。８名の方々がどの様な体験を通じて、キリストと共に歩む幸せを得ることが出来たのでしょう。是非お読みください。感動が湧いて来ます。

番号	氏名
①	栗山英子
②	皆川廸子
③	佐久間優子
④	深沢俊平
⑤	犬伏輝子
⑥	平尾慧美
⑦	水野綾子
⑧	佐久間満

「信仰のあかし」

千葉キリスト教会　栗山　英子

私は小学校の頃は、新潟市の家の近くの教会の行事で、子クリスマス会、夏季聖書学校に参加していました。

でも、父の転勤が多く、高校生2年生の時、新潟県の高田市、今の上越市で高校生の聖書研究会に参加し、聖書を通して神を知る機会が与えられ、その冬のクリスマスイブには雪の町をキャンドルサービスで讃美歌を歌い歩いている時に神の臨在を感じる事ができ、主を賛美しました。

でも、また父の転勤で新潟市に戻り、社会人となり結婚し、二人の子供に恵まれて生活を送るうちに、いつの間にか神への信仰、関心を失っていました。

主人の転勤で木更津市の社宅にいた時、ものみの塔の方が訪問され、あまりに熱心に伝道をなさるので集会に参加しているうちに、礼拝の説教で「イエスキリストは神ではない、最初に造られた被造物である。神はエホバだけ。」と聞いて、この教えは間違いだと思い、集会に行くことをやめました。

その後、毎日のように訪問を受け「信じなければ貴方は滅びます。」と聞かされましたが、そんな時SDA木更津教会の講演会に出席して、初めて礼拝日は土曜日の安息日であること、聖書の十戒のなかの第四条に「安息日を覚えてこれを聖とせよ」の御言葉があることを知り、牧師との聖書研究をはじめました。

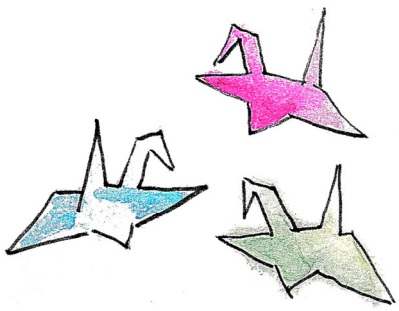
半年たたないうちに、主人の転勤で大宮に転居しましたが、大宮教会に出席し、聖書研究を続けた結果、バプテスマを受ける決心が出来ました。

土曜日には子供たちも喜んで教会に出席して、子供のクラスの暗唱聖句が大好きでした。神からの祝福をいただき神を賛美することが出来、平安な日々を過ごせるようになりました。

神から賜った子供に信仰を受け継ぐ責任を感じ、安息日が信仰の試金石と考えましたが、その頃の小学校は土曜日に授業がありましたので、校長先生に「私には子供に分けてあげる財産も、また特別な才能もありませんが、キリストへの信仰だけは分け与えてあげたい。」とお話ししましたところ、出席扱いをしてくださる許可を頂き神様に感謝しました。

担任の先生が家庭訪問に来られた時、「栗山君から『イエス様は先生のためにも死んで下さったんです。』言われました。」と話してくださり、子供の信仰はすばらしいと感じ、イエス様が育んでくださる事を感謝しました。

今、息子たちはそれぞれ神から与えられた仕事に感謝し、家族全員で信仰の道を歩んでいます。



キリストとの出会い

千葉キリスト教会　皆川　廸子

私が、信仰の道を歩めたのは、戦前からのSDA信者である母の影響が大きいです。母について少しお話しします。

明治生まれの母は、長野市の門前町の家に大きな仏壇があり、折ごとに坊さんが来てお経を上げる仏教徒の家でした。

母は結婚後、盛岡の北上川でバプテスマを受け、その後自宅で家庭集会が始まりました。ズーズー弁の柴田先生のポスターや聖書の話が珍しく面白く、神様の奇跡に驚く小学２年生の頃でした。

そして、太平洋戦争が始まり、SDAの終末観やキリストの再臨信仰が当時の国策に反するということで牧師が検挙され、母も聖書を没収され、小さな弟を背負い、警察に呼び出されました。小さな片隅の家庭集会も当時は許されませんでした。

９９歳で亡くなるまで信仰を持ち続け、質素倹約を旨に家庭を守り、教育熱心な母は神からの教えと恵みで祝福されていました。

枕元には、赤線が引かれて真っ赤になった聖書がいつもありました。

また、母は教会で知った健康食を守り、美食よりもまず体に良い物を中心に四人の子供を丈夫に育ててくれました。私は、母から受け継いだ食事を今でも続けています。

母の信仰が無かったら、私は神を知りませんでした。私を支え、行く道を示した神を知ったのは千葉教会です。その頃、畠にかこまれ四季折々の花が咲いていました。子供の頃の家庭集会から教会を忘れていました。しかし、世の中は努力や知識だけではどうにもならない事を多く経験した母に背中を押されて教会の戸をたたきました。

「聖書の言葉は、人類の生きる道を与えその価値はいつの時代にも変ることはない」若い頃母に言われたみ言葉が教会の始まりです。

聖書に**『天が下のすべての事に季節があり、すべてのわざに時がある。神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた』（伝道の書3章1節、11節〔口語訳〕）**とあります。

どんなきっかけで神を知り求めるか、誰も知りません。人生の歩みは辛い経験が多くあります。神は、それらを通して私を訓練し霊的成長をさせて下さいます。ぶどうの木につながる教えで多くの恵みと平安を頂きました。老いによって消えることのない心の豊かさを今からでも求めて行きなさいと神は声をかけ続けています。

母が私に長い間サインズや教会の読み物を送り続けてくれたように、私も家族や知人に送りたいです。先週、母の１３回忌に兄弟や孫と墓前で讃美歌を歌えて喜びでした。すべてを神に感謝します。

私の大切な聖句

「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。」
（詩篇119篇105節〔口語訳〕）

「証」

千葉キリスト教会　佐久間　優子

２０代の終わり頃、私は千葉駅西口近くにありましたSDA英語学校に通い始め、時々バイブルクラスにも参加するようになりました。

カナダやアメリカから来られた若い学生宣教師が教師というのも魅力でした。SM（スチューデントミッショナリー）と呼ばれていた彼ら（彼女たち）は、覚えたての日本語で一生懸命話したり、冗談を言って笑わせたり、ふざけたり……のフレンドリーな若者たちでした。そして、英語のクラスもバイブルクラスもまじめに熱心に、自由な雰囲気の中で一緒に歌い、また、聖書のお話しをして下さっていました。

彼らを見ていて、クリスチャンとして神を信じる生き方は尊敬できると感じました。それまではキリスト教というのは、律法に縛られた堅苦しいものというイメージを持っていたので、そういう意味で見方が変りました。

人類学を学んでいた先生は、マタイ１章のイエスの誕生の箇所で聖霊によるマリアの受胎について解り易く説明して下さいました。細かいことは忘れましたが、私は少しずつ聖書の神を信ずるに値するものと捉えるようになりました。

創世記１章に**「はじめに神は天と地とを創造された」（１節）**、また、**「われわれにかたどって人を造り、……」（２６節）**とあります。

進化論を疑っていなかったので、進化の途中「〇〇猿人」というのが私たち人類の祖先と思い、ずっと内心で「嫌だなぁー」と思っていました。そんなこともあって「神が人を造られた」という事実は私にとって大きな「Good News」でした。

ですが、「聖書の神を信じられる」ということが「信じて受け入れる」というにはちょっとハードルが高すぎる気がしていました。現実の生活と微妙なギャップを感じていたからです。

それからしばらく経ってから転機が訪れます。当時働いていた会社が都内の本社に事業を統合して、千葉の営業所を閉鎖することになりました。私は、同じビルのグループ会社に異動になる旨告げられましたが、退職することにしました。

３０代になっていてこれからどうしよう……と不安の中でぼんやりと考えました。そんな時に、キリスト教の神を信じてバプテスマを受け、それから次のステップを考えても良いのでは……と考えるようになりました。

お祈りして答えを得たわけでもありませんでした。その時はそれがベターと思い、自分で考えて決めたことと思っていました。

後になって思い返してみますと、ミッショナリーの先生方とスタッフの方々のお祈りがあり、また、聖霊によってそのように導かれていたということが分かりました。バプテスマは、それから４ヶ月後の７月に金碩萬先生によって授けていただきました。

そして、導きによって三育フーズで働くことになりました。安息日は完全にお休みですし、頼もしい信仰の先輩方もおられ、よい環境で仕事をすることができて感謝の一言です。

神のみ業は何とも不思議で、罪深い私の想像をはるかに超えていると感じられます。そのような神様にこれからも従って歩んで行きたいと思います。

神と共に歩む幸い

千葉キリスト教会　深沢　俊平

皆さんこんにちは、お元気でお過ごしでしょうか。

私の生い立ちは、東京衛生病院で生まれたのですが、6ヶ月の時に肺炎にかかり、一時は命が危ぶまれ、小児科の看護婦をはじめ職員全体の朝礼でも毎日私の為に祈って下さり、なんとか一命をとり止める事ができたそうです。本当に多くの方々の祈りによって支えられてきた事に感謝しています。

そして小学校は、東京三育小学校に入学し、神様の事を学ぶチャンスに恵まれ、中学校も日本三育学院中学校に入学し三年生の春に和賀真也先生によって祈祷週が持たれ、イエス・キリストが真実の神様である事を確信しバプテスマを受ける決心をしました。

振り返って見ますと三育教育で学んだ事は、祈りの大切さや賛美する喜びまた御言葉によって慰めや励ましを受けると言う事で、この教育が社会に出てからおおいに役立っている事を実感しています。

世の中には私など到底経験したことの無いような辛く悲しい経験をされている方々が大勢いらっしゃり大変おこがましいのですが、社会に出てさまざまな問題に直面し辛く悲しい経験をして思い悩む時に、自分の力や考えに頼るのではなく、神様により頼むと言う事がとても大切であると言う事を実感しています。

そして私達の信じている神様はいつも私達のそば近くにいて下さり、最善の方法で問題を解決しようとされている愛の御方なのではないでしょうか。

本当に私達の人生は様々な問題が次から次へと起こり、悩み苦しみ失望・落胆する事の連続ですが神様を信頼して毎日を過ごす事によって良い結果を得る事ができるのではないでしょうか。

皆様の上に神様の豊かな守りとお導きがありますようにお祈りしています。

「主からいただいた安らぎ」

千葉キリスト教会　理事　犬伏　輝子

私は「あなたは石橋をたたいて渡らない」と言われたくらい優柔不断な人間ですが、神様はそんな私を忍耐強く導いてくださいました。

父は、良いお嫁さんになるという話を聞いて、私を中高一貫教育の女子校に入れたのです。女子にキリスト教の精神で教育を施す目的で公立校の同窓会が設立した学校であり、内村鑑三の弟子で無教会派のクリスチャンが校長先生でした。お祈りや賛美歌になじみ、十戒、ベンハー、偉大なる生涯の物語などの映画に連れて行ってくれました。卒業式では讃美歌「神ともにいまして」で送りだされました。

専門学校卒業後、就職したライオン歯磨株式会社の社長はクリスチャンでした。月一回の朝礼には牧師さんのお話があり、誕生日には牧師さんから聖句を書かれた手書きのバースデーカードが届きました。三育中学に2年間通った人との出会いもありました。

結婚して2年後に、家族5人でこの教会の近くに越してきました。教会の前を通った時にいつかここに来たいなと思いました。

二人目の娘が生まれ、上の娘が体調を崩し、2年位苦労しました。漢方のお医者さんにかかるようになってから自然食を始め、目に見えてよくなっていきました。

自然食品の購入がきっかけで、教会の人と出会いました。勧められるままに聖書通信講座を受け、ホワイト夫人の本を読み、この世で起きることの理由が今までより良く理解できました。神様がいらっしゃることをどうやって確信するのか野中さんに伺ったところ、答えは「祈ってみて。」でした。その頃よく困ったことは、鍵を持ちなれていない私は鍵を持たずに玄関をロックして家を出てしまうことでした。帰ると家に入れません。それで祈りました。祈りは聞かれ解決し、困ることはありませんでした。

聖句をひとつ紹介いたします。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

（マタイ11章28～30節〔口語訳〕）

キャンプミーティングに参加したときにこの聖句を聞きました。優しい言葉に嬉しくて涙が出ました。

その後バプテスマを受け、心身共にすっきりしたことを覚えています。それまでひとりで重荷を負って暮らしていたのだとわかりました。

これから歌って頂く、希望の讃美歌396「おおしくあれつよくあれ」は、娘が小学校１年の夏に三育小学校に転校してすぐに、小学校の生徒全員で元気に歌うのを聞いてとても感動した歌です。

千葉教会の元気な子供さんたちに歌って頂けてとてもうれしいです。

「あかし」

千葉キリスト教会　平尾　慧美

私は、友人に誘われて東京の天沼教会に行くようになりました。連続講演会に出席し、聖書研究会に参加し、続いて預言の声聖書通信講座で聖書を勉強しました。聖書を勉強していくうちに、聖書の素晴らしさを知るようになりました。やがて、聖書の神様にお従いして自分の人生を歩んで行きたいと思うようになりました。

実は、私が小学校四年生の時、母と死別しました。人は死んだらどのようになるのだろうか？と強く知りたかったのですが、なかなか納得のいく解答は得られないまま年月が過ぎていきました。

母の死んだ一年後、父は、「子供好きな人を」という条件で友人に紹介された女性と再婚することになりました。私は、その頃少女小説を沢山読んでいたので、まま母との生活は本の中とはいえ大体わかっていました。でも、私は、子供ながら新しいお母さんを本当のお母さんと思って懐いていこうと心の中で決心しました。

しかし、友だちの家に行って感じることは、やはり本当の親子と義理の親子関係とは違うのです。人間は、血がつながっていないとダメなのかと、さみしい思いで過ごすようになりました。

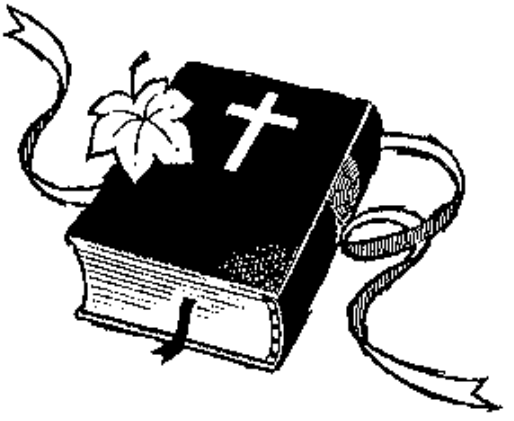
中学三年生になったある日、継母は私に次の様なことを言いました。「わたしは、本当は子供好きじゃないのよ！慧美に醜男で金儲けのうまい婿を迎えて、わたしの老後は“左うちわ”と考えて結婚したんだ」と。まだ結婚など考える年でもないのに、自分の老後の安定のために勝手に私の将来を決めつける継母をとてもいやになりました。

そんなことがあってから、私は、いつしか正しい結婚の方法を知りたいと思うようになりました。また、継母のお金についての考え方にもついていけませんでした。

次に、私の高校時代は、アメリカで原爆実験のニュースが度々報道されていました。日本では、すでに広島、長崎で悲惨な経験をしているのに、更に、あらたに原爆が作られているとは？いったい、この地上で安全に暮らせる場所はどこだろう。これらが、私の十代の頃の頭の中の課題でした。

聖書を学んでいるうちに、私のこれらの課題が全て納得できる形で解決しているのに気がつきました。私は、これからの人生を進むにあたり、聖書のみ言葉を“わが足のともしび”として歩み、聖書の神様を仰ぎ見て人生をおくろうと決心しました。

聖書の神様は、今は目に見えませんが聖書の中で約束されているように、常に私と共にいて下さり、助け、守り、お導き下さり、祈りを聞いて下さいます。誠に主はほむべきかな！



「私のキリスト体験」

千葉キリスト教会　水野　綾子

私は母のお腹にいる時に、母がバプテスマを受けましたので、小さな時から教会に通い、聖書の話を聞き、何も疑う事もなくそれが当たり前の生活でした。

小学生になり、当時は土曜日も学校の授業がありましたので、度々学校を休む事を、友達から「どこに行っているの？」「教会？何それ？」自分は普通だと思っていましたが、教会や神様など周りの友達は知らない事に気付いた時、「私は普通じゃないのかな？」と疑問に思いながらも、母に連れられ教会に通っていました。

中学校を卒業して、高校では中学時代から続けてきたバスケットボール部に入りました。地域の中では超弱小チームでしたが、大好きなバスケットボールを友達とできる事がとても楽しい充実した毎日でした。

しかし、高校２年生になり、新キャプテンを任命され、楽しかった高校生活は一変しました。中学校でもキャプテンはやっていたので、大丈夫だろうと、高を括っていましたが、そんな甘いものではありませんでした。顧問の先生は、私達の練習態度を見て、「やる気が感じられない。」と体育館の使用を禁じ、ボールにも触れられず、ひたすら外練習の日々が続きました。部員の不満を聞きながら、先生には冷たい態度を取られ、先生と部員の狭間で、自分はキャプテンとしてどうすれば良いのか大変悩み、生まれて初めて壁にぶつかる経験をしました。

そんな時、子どもの頃に見ていたアニメバイブルに目が止まり、その中の御言葉(ヘブライ１２：５～１２)によって励まされ涙しながら読みました。

丁度その頃、母の勧めで当時千葉教会牧師の野中先生に聖書研究をしてもらっていました。バプテスマを勧められ、小さい頃から教会にも行っていたので抵抗感もなく、とにかく精神的に辛い時だったので、神様にすがるような思いでバプテスマを決心したと思います。

それから部活の方は、辛いハードな練習にも耐え、試練を共に乗り越えてきた部員との結束力も高まり、少しずつ勝てるチームになって来ました。その頃から私の祈りは「県大会への出場」を神様に願っていました。

勝てば県大会初出場、負ければ引退と言う高校３年の試合の対戦相手は、毎年県大会に出場している実力のある学校。やる前から結果がわかるような、そんな学校と対戦し、案の定リードされ、これ以上離されたら負け確定、私は終わったと諦め始めた時、先生がタイムを取り思いもよらない事を言い出しました。「みんな、ここで諦めるのか？おい、見ろよ！篠田(旧姓)だけは諦めない顔しているぞ！」と言われ拍子抜けしました。そこから一気に流れが変わり、ドラマみたいに見事逆転勝利！

「およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。（ヘブライ１２：１１）」
この御言葉を実体験させて頂きました。

今回、バプテスマを受けた頃を振り返り、大変だった事が沢山ありましたが、一つ一つに意味があり、神様が一つ一つ導いて下さっていた事に改めて気づかされ、感謝でした。

「証」

千葉キリスト教会　佐久間　満

私が、川崎市に住んで高齢者になったと同時に再開発事業により住居を移転することになりました。仕事を離れて住居探しの日々となりました。私の姪であります教会員、野中洋子は桜木町に住んでいます。彼女は、私の事情を知って、若葉区内の一戸建て中古物件の広告（チラシ）を送ってくれました。平屋造りの良い建物でしたので、参考資料にすることにしました。

私には、二人の実姉がいて千葉教会員として在籍していました。姉・小川節子、木方淑子の二人です。今、二人は眠りについていますが、二人ともコワイヤーの一員として、土曜日の礼拝に祈り賛美すること、午後には森恵子姉の指導を受けてコワイヤーの皆さんとレッスン時間を持ち、明るく楽しい信仰生活を送ることができたことは教会員の皆さんのお陰であると思っています。

その姉たちからかつて送られてきた聖書２冊は、本棚の中に眠っていました。また、度々電話口で話される「本を読みなさい」、「聖書を読んでみましたか」、といういつもの会話は、気にしながらも聖書を開いて読み込む余裕などありませんでした。ある時、歌を歌うことが好きな私に、「満、教会で賛美歌を歌ってくれないか」などと突然言い出したこともあり、なにか夢でも見たのでしょうか。

住居探しも進み、インターネットの中で見つけた物件と参考資料の中のある物件が同じであったことから、現在の若松台の家に決定しました。住み始めて４年目になります。千葉教会に導かれ、安息日礼拝では、祈りと賛美そして牧師先生方の説教を聴くことで神のみ言葉を学び知ることになりました。また、コワイヤーの一員として調和の取れた賛美の歌を歌うことで元気が出ました。

その後、渡邊長老によりバプテスマを勧められました。まだ早いのではとも思いましたが、磯部牧師の司式によって受けることができました。そして、２年後の私は、聖書のみ言葉のみが真理であることを信じることができています。

信仰に生きる私たちの心の中は、善によって満たされていなければなりません。心の隙間より入り込む悪が住み着いてはならないのです。私たちは、常に賛美と祈り、神との会話によって悪を排除することができるのです。そして、神の愛によって導かれ、恵みと慈しみに癒されながら、私たちは家族と隣人を愛して互いに信じ合うことが大切です。愛し合うことで幸せな明るい生活を送れることを信じて、残り少ない人生を神と共に歩めることに感謝して祈ることにいたします。

私の好きな聖句

「草は枯れ、花はしぼむ。しかし、われわれの神の言葉はとこしえに変ることはない。」　（イザヤ書40章8節〔口語訳〕）

コスモス

楽しかったVBS（夏期聖書学校）

千葉キリスト教会　児童伝道部長　丸山　敦子

7月26日から28日、児童伝道部でVBS(夏期聖書学校）を行いました。

第一日目は教会の西岡さんから聖餐式のパンの作り方を教えて頂きました。酵母(種)を入れないパンをこね、ボールに叩きつけること300回、この作業に子供たちは興奮気味でした。

磯部先生からイエス様から来る御言葉は“いのちのパン”であることを学びました。

続いて教会の浅川さんからビーズ入り紙粘土作りを教えて頂きました。どんな形でもいいよと伝えると、子供たちはそれぞれ個性溢れる芸術品をどんどん作り上げ、子供たちの想像力の豊かさに、スタッフ一同驚かされました。

二日目は安息日。安息日学校では、何故、種を入れないのか聖書によって学び、礼拝では磯部先生作詞、白鳥俊さん作曲の創作讃美歌「聖書読みましょ」を特別賛美致しました。

午後からはいよいよメインイベントである“段ボールハウス”作り、一夜限りの我が家に工夫を凝らして、中には設計図まで作って一生懸命に建て上げました。翌日、寝心地をどうだったか聞くと皆、最高だったと嬉しそうに言っていました。

三日目はいつものチャレンジクッキングの時間を午前にして工作とお菓子作り。お菓子作りは山本綾音さん指導のもと“ポンデリング”を作りました。お豆腐と粉を混ぜてドーナツを作り、豆乳ミルク等で飾り付け。美味しくて可愛いドーナツの出来上がりです。

三日間を通して毎日、初めての参加の子供が与えられたことは私たち児童伝道部の励みとなりました。

参加の子供たちに感想を聞くと、全部楽しかったと言う子もいました。子供たちもこの三日間、主にある仲間と共に生活する楽しさ、共に食べ、共に作り、協力しあうことの素晴らしさを体験できたのではないかと思います。

磯部ミセスと教会女性部の協力、教会員皆様のご厚意と励ましのお祈りのおかげで無事に盛り沢山の三日間を終えることが出来ました。

これからも子供たちの成長と主の御心に沿う活動、主に感謝の心をお捧げできる活動を目指して児童伝道部と子供たちと心を合わせて前進していきたいと思います。

素晴らしいできばえのビーズ入り紙粘土の作品を前に笑顔で集う参加者の皆さん

祝福された「サンセット・バイブル・カフェ　夏祭り」

千葉キリスト教会　山本　一

去る7月27日（土）夕方6時より、千葉教会1階正面玄関前のピロティにおいて、毎年恒例の「サンセット・バイブル・カフェ夏祭り」を催しました。

台風が関東に直撃するという天気予報もあり、教会が建っています町内会をはじめ、他の市町村のお祭りが中止になる中、「絶対に雨は降らない！」との教会員の声に励まされ準備いたしました。（信仰の薄い私は、雨の場合にはピロティのひさしの下か、建物内ですることになるかと考えていました。）

神様のお支えの中、一日を通して暑いほどの良い天気で、雨も一滴も降らず、無事に夏祭りを開催することができました。

まず1階のホールにてサンセット礼拝をし、千葉教会の磯部牧師から天国のお話をお聞きししました。

サンセット礼拝で天候の支えを祈りました

その後、流しそうめん、ホットドック、かき氷、ラムネ、ポップコーン、焼きマシュマロをお楽しみいただき、終盤には恒例のビンゴで豪華（？）な景品をゲットしていただきました。

流しそうめんです早くすくわないと流れてしまうよ

暑い暑い！一番人気のかき氷

焼きマシュマロを焼いて楽しんでいます

最後は**ビンゴ**です　1等賞は！丸ごとスイカ一個です

サンセット礼拝の前には教会員の高幣さんより、夏祭りの天候が支えられたことから、「私たちが人の為に良い働きをしようとしているとき、神様にお祈りしてみてください。必ず神様はその願いを聞き入れてくださいます。」との証しをお聞きしました。

夏祭りのような楽しい行事を通して教会にお出でいただき、お交わりの一時となればと思います。

楽しかった「こだまハーモニカ・クルー」の皆様のコンサート

千葉キリスト教会　長老信徒伝道部長　金田　寛子

私たちの教会では隔月４週目の安息日（土曜日）の夕方５時半よりサンセット・バイブル・カフェを開いています。

５月２５日の日没は正確には６時５０分頃、５時半はまだまだ日が高く窓からさしてくる夕日をうけての開店となりました。

聖書の示す一日は日没から日没までなので土曜日の日没から新しい1週間が始まります。この新しい週の初めを神様に感謝しながら、聖書にまつわる話を聞いたり、軽食とコーヒーをいただきながらおもいおもいにおしゃべりを楽しみます。どなたでもお気軽に参加してください。

この日は渡邊長老のヨブ記についてのお話がありました。この日の午後千葉県南部で震度5弱の地震がありびっくりしましたが、このように人生には突然始まる出来事があり、神様の意図が理解できないことも多くあるが、神様との長い格闘の後ヨブが最終的に祝福を受けたように、私たちにも人間の思いを超えたところで祝福が与えられるという神様からの約束を語ってくれました。

楽しい食事とくつろぎのあと「こだまハーモニカクルー」の皆様によりコンサートが開かれ「ドナウ河のさざ波」「学生時代」「四季の歌」などたくさんの曲を演奏していただき、楽器としてのハーモニカの奥深さに魅了されました。司会者の絶妙なトークに感心したり、またハーモニカの種類の多さに驚いたり、みんなで青春時代に戻り一緒に歌い楽しいひと時をすごしました。

ちなみにこの日の軽食メニューは
ベジタコスグラタン
オープンサンド
サラダ
オニオンスープ
カフェインレスコーヒー、
野菜ジュース
等でした。

次回は９月２８日　ジェンテーレによるマンドリン演奏を予定しています。

いっぱいの集会室で賛美をする
サンセット・バイブル・カフェ
参加者の皆様

ハーモニカの種類の多さに驚きながら
コンサートを楽しみました

カフェスタッフを募集しています。
簡単な調理でどなたでもできます。

第3回「チャレンジクッキング」を終えて

千葉キリスト教会　児童伝道部　土屋　輝昌

今年から児童伝道部では、幼児から中学生を対象としたプログラムを企画しプログラム名をチャレンジクッキングと決めて奇数月 に実施してきました。

５ 月２６日(日) のプログラムは、賛美とお祈りではじめ、その後、丸山姉に下記の聖書の話をしていただきました。

詩編139編13節

「あなたは、わたしの内臓を造り、母の胎内にわたしを組み立ててくださった。」

詩編139編16節

「胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。わたしの日々はあなたの書にすべて記されている、まだその一日も造られないうちから」

上記の二つの聖句に関わる話で、大人・子供も静かに聞いていました。私たち児童伝道部としては、聖書の話は欠かせないものと考えています。

続いて徳永ご夫婦による手品を見て楽しみました。毎回、みんなリラックスして楽しんでいます。

第三回目の工作は、中学生の山本慈生君を中心としてグライダー作りをしました。子供たちは、思い思いの大きさのグライダーを厚紙から切り取り、割り箸に取り付け、出来た人から、礼拝堂に通じる通路で飛ばしました。みんな、思った以上に飛ぶので、目をキラキラと輝かして飛ばしていました。

最後は、家庭会の永島姉の指導によりフルーツパフェ作りで、大人も子供も一生懸命につくりました。思い思いのパフェはとてもカラフルで面白く美味しかったです。このフルーツパフェ作りでは、教会の皆様の献品がたくさんあり、児童伝道部全員感謝しております。

子供たちの自主性が育ち始め、次々と企画のアイディアを出してくれています。大人も子供たちに負けじと気合を入れて頑張っています。

次回、第四回目のチャレンジクッキングは、7月26日からのVBSとコラボ企画で、7月28日（日）9時30分から千葉教会3階で行う予定です。手品・工作（カラフルグラス作り）・山本綾音さん企画の元でポンデリング（ドーナツ）作りを行います。関心のある方は、子どもに限らず、是非ご参加ください。

これからも、奇数月の第４週の日曜日に開催予定です。児童伝道部家庭会全員一人でも多くの参加を、お待ちしています。

作った紙飛行機を手に笑顔の子供たち

さあ、これからフルーツパフェ作るよ！

賛美の歌声を上げよう

千葉キリスト教会　コワイヤー　酒井　紀子

２０１９年６月２３日（日）午後２時より千葉教会礼拝堂にて、第8回チャーチコンサート「賛美の歌声」が開催されました。

“感謝と喜びを込めて賛美の歌声を上げよう”と多くの演奏者が集まってくださいました。音楽を通して共にその喜びを分かち合いたいと聴衆の方々がご来場下さいました。礼拝堂は満席となり、バルコニー席も一杯となりました。

コンサートは青年コワイヤー(広島三育学院高校OB)１１名による見事な男声合唱で始まり、一瞬にして魂をとらえる若々しい力強い歌声は心に響くものでした。

モスグリーンのドレスに身を包んだ菱沼あけみさんのメゾソプラノの音色は落ち着いて美しく、その語りかけるような一つ一つの言葉は彼女の信仰と相まって説得力があり、聞いている一人一人の心を捉えたのではないでしょうか。

太田香織さんの愛溢れるフルート演奏による賛美と、森ファミリーのチェロ、バイオリン、ピアノによる賛美歌メドレー、それぞれから流れ出る数々の賛美歌を楽しむことが出来ました。

ジョン・ウィグォン牧師は「私の人生の牧者」と題するメッセージと２曲の賛美をして下さり、“神がいつも共にいて下さること”を分かりやすく語って下さいました。

最後のステージのヘブンズコワイヤーは当日参加者多数にもかかわらず、全員が心一つとなって、喜びと感謝を以って「主のゆきたまいし」など３曲を晴れやかに賛美いたしました。

教会の枠を超えて、神様を賛美したいと集まったメンバーで成り立っているヘブンズコワイヤーは、神様の大きな愛と祝福に包まれていつも楽しく賛美を続けています。チャーチコンサートでは、音楽を通して演奏者と聴衆が心ひとつに結ばれる幸せな時を頂いています。なんと素晴らしいことでしょうか！

いつもお越し下さる皆様が「コンサートは楽しみ」と言われて、チャーチコンサートの回を重ねる毎に、友人知人の方々をお誘いくださり来場して下さるのです。この大いなるお恵みに心からの感謝を奉げたいと思います。

「ヘブンズコワイヤー」のメンバー

第９回チャーチコンサート開催予定は下記の通りです。皆様のお越しを心からお待ちしております。

第９回　２０１９年１０月２７日（日）
１４：００開演
「室内楽とオペラアリア」」

９月、１０月、１１月の行事

◇　敬老お祝い会（礼拝ご招待日）

☆日時:9月14日(土)13:00～15:00　☆場所:千葉キリスト教会　礼拝堂

☆幼児から高齢者の方々まで集う楽しい敬老お祝い会です。手品、子供たちの賛美となぞなぞ、曲名当てクイズ、敬老お祝い対象者のお話、などでお楽しみください。皆様のお越しをお待ちしております。

◇　秋の講演会　於：千葉キリスト教会礼拝堂

✞秋の講演会A①☆日時:10月7日(月)　13時～

✞秋の講演会A②☆日時:10月16日(水)～10月17日(木)

✞秋の講演会B　☆日時:11月1日(金)～11月2日(土)

✞秋の講演会C　☆日時:11月4日(月)～11月14日(木)

講演題など詳細が決まりましたら、別途チラシ等でご案内申し上げます。

◇　チャーチコンサート〔10月27日(日)〕

☆日時:10月27日(日)　☆開演:午後2:00　☆場所:千葉キリスト教会　礼拝堂

☆コンサート・メイン・テーマ:「室内楽とオペラアリア」

☆コンサート・テーマにそった演奏や、ヘブンズコワイヤーの合唱をお楽しみください。

☆茶話会(場所は集会室):コンサート終了後は茶話会でお楽しみください。

皆様のお越しをお待ちしております。

毎月の定期集会（開催場所：千葉キリスト教会　集会室）

◇　菜食料理教室

☆日時：毎月、第一月曜日に開催します。午前１０時～１３時

☆参加費：５００円　☆どなたでもいらして下さい。

◇　聖書セミナー

☆日時：毎月、第二(黙示録)、第四(創世記)水曜日に開催します。午前10時～11時30分

☆講師：千葉キリスト教会牧師　磯部豊喜

◇　サンセット・バイブル・カフェ

☆日時：奇数月の第四土曜日の夕べ開店します。午後５時３０分～７時３０分

☆心がほっとする聖書の話、素敵な音楽、楽しいおしゃべりなど、癒しの時間を共に過ごすことができればと願っています。軽食とお茶を用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

◇　チャレンジクッキング

☆日時：奇数月の第四日曜日。午後1時～3時。

☆対象：子供の皆様（小学生以下は保護者の御同伴をお願いします。）

☆どなたでも御参加下さい。工作づくりもあります。

安息日学校（毎週土曜日）

☆賛美礼拝：午前９：１５～９：２５

☆聖書の学び：午前９：２５～１０：４０

安息日礼拝（毎週土曜日）

☆千葉キリスト教会：午前１１：００～１２：００

☆シャローム若葉虹の家：午前９：３０～１０：１０

祈祷会

☆毎週、火曜日夕午後６時及び水曜日朝午前７時３０分から祈祷会をしております。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り:3、4階　千葉キリスト教会

1、2階　シャローム若葉

電話:043(231)3620

FAX:043(231)1634

Email:sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ:

http://www2.odn.ne.jp/sda-chiba/

★発行責任者:

磯部豊喜　牧師

★スタッフ:

酒井　闊　吉田　敏英

綿引　秀子